

マグロ養殖業の現状と課題

2021年7月16日

株式会社極洋

代表取締役副社長 酒井 健

1. 養殖クロマグロ生産状況

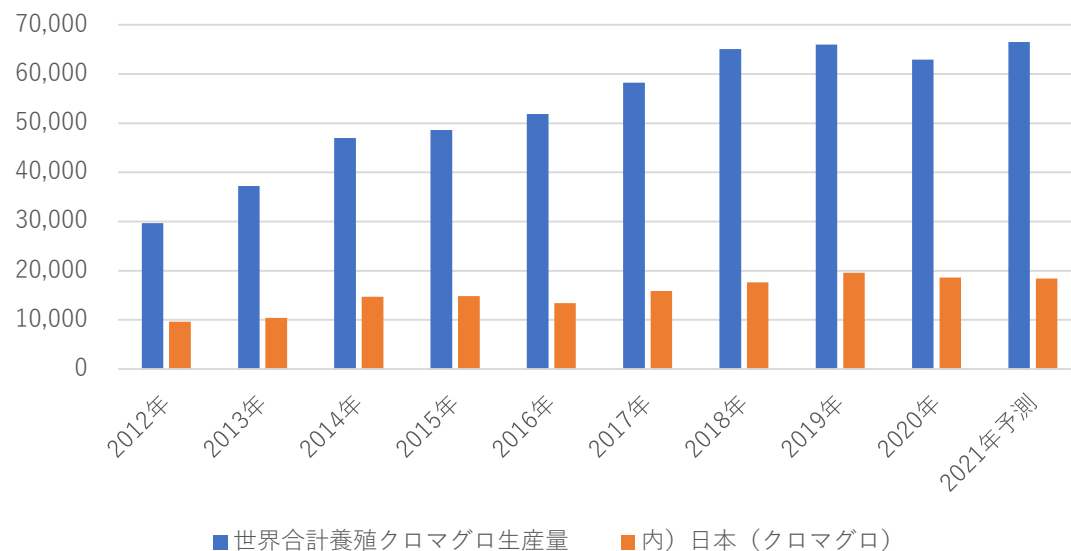
(1) 世界、日本養殖クロマグロ生産状況

(単位：トン)

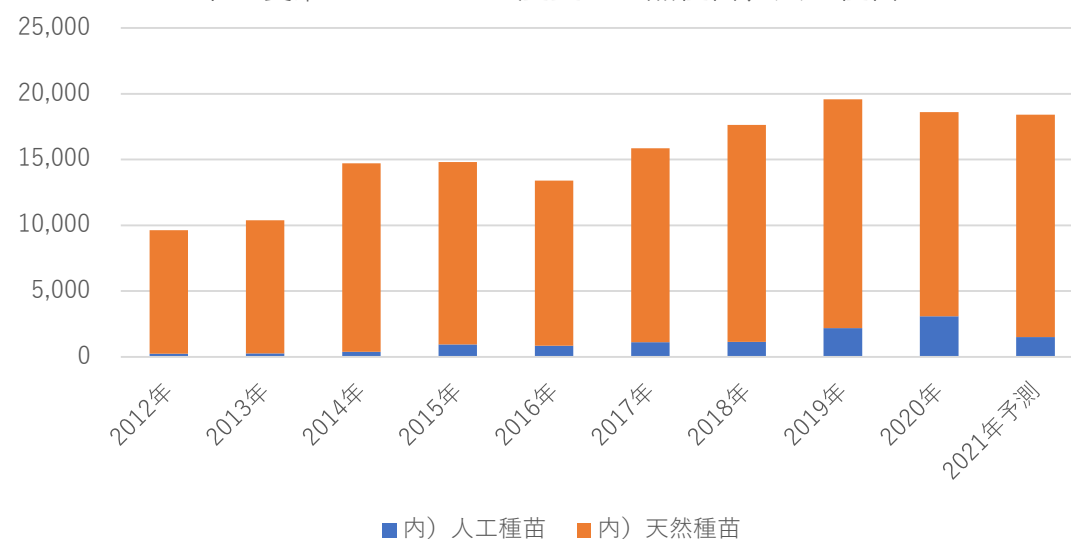
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年予測
世界合計養殖クロマグロ生産量	29,680	37,196	47,013	48,625	51,883	58,258	65,091	65,988	62,909	66,500
内) 日本 (クロマグロ)	9,639	10,396	14,713	14,824	13,412	15,858	17,641	19,588	18,609	18,429
内) 人工種苗	244	276	387	943	849	1,118	1,147	2,199	3,095	1,516
内) 天然種苗	9,395	10,120	14,326	13,881	12,563	14,740	16,494	17,389	15,514	16,913

出典
 世界合計 当社推計
 日本 水産庁
 2021年は当社推計

世界の養殖クロマグロ生産量



日本の養殖クロマグロ生産量 天然種苗、人工種苗



(2) 日本のクロマグロ種苗活込尾数

(単位：千尾)

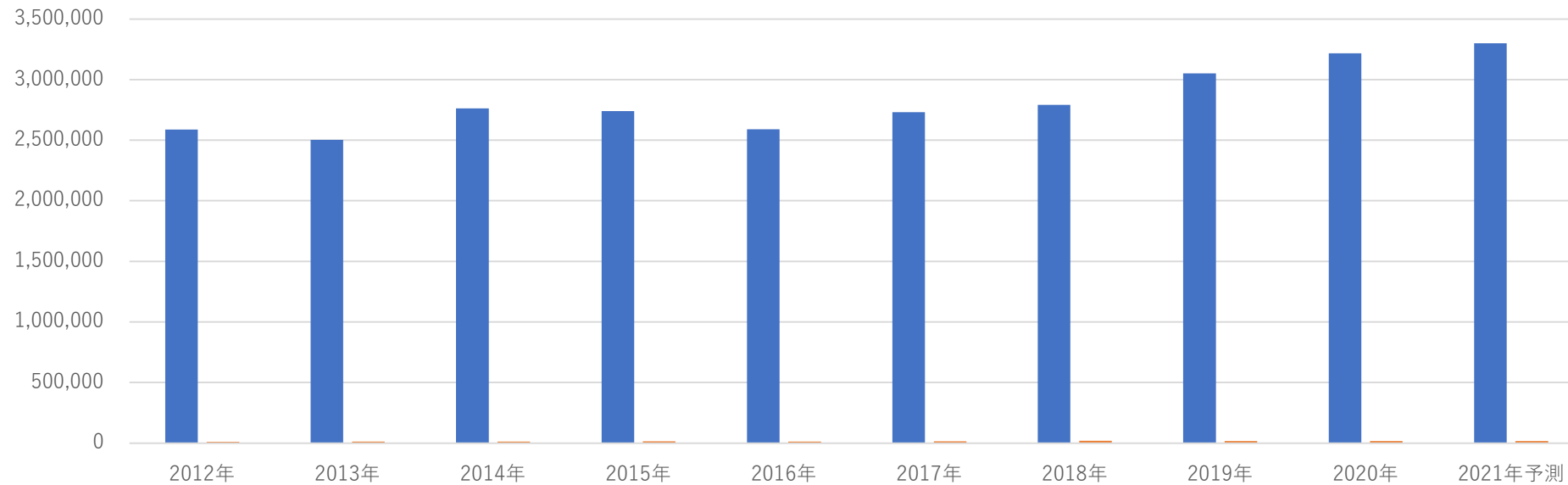
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
種苗活込尾数	473	611	515	943	995	868	789	590	515
天然種苗	205	347	222	394	526	373	410	358	320
			内巻網→	161	267	219	246	235	230
			巻網率	41%	51%	59%	60%	66%	72%
人工種苗	268	264	293	549	469	495	379	232	195
人工種苗比率	57%	43%	57%	58%	47%	57%	48%	39%	38%

出典
天然種苗 水産庁
(巻網種苗は当社推計)
人工種苗 水産庁

(2) 世界 日本養殖鮪生産状況

(単位：千尾)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年予測
世界合計	2,586,571	2,501,950	2,761,268	2,738,831	2,589,677	2,731,957	2,791,698	3,052,300	3,217,735	3,299,143
日本	9,728	12,215	12,802	13,937	13,208	15,648	18,053	15,900	16,659	16,500



出典 FAO統計
2020年、2021年は当社推計

- ・クロマグロ増加傾向、枠の規制があるため大きな増加はない
- ・サケマスと比較し、クロマグロの養殖は規模が2桁少ない
- ・その中で比較的日本国内での養殖比率が高い
- ・輸入量でみると様々な形態（GG、F、ロインなど）のため全体の数量は掴みにくいですが、世界の養殖量の8割程度は日本へ輸出されている模様
- ・近年は、北米、ヨーロッパ、中国、韓国での消費量が増加傾向。
- ・天然種苗はまき網比率が増加傾向
- ・人工種苗の比率が減少傾向

2. 当社のクロマグロ養殖業について

(1) 関係会社3社

(2) 歴史

クロマグロ養殖会社設立（2007年）、クロマグロ完全養殖会社設立（2012年）
完全養殖クロマグロの出荷開始（2017年）

(3) 収支

3. 漁協との関係

(1) 良好

(2) 制度面では不満、漁業権行使料の負担が大きい

(3) 取引内容：多岐にわたる

(4) 必要性：疑問あり

4. 漁場環境について

漁場の設置場所、規模などの柔軟性に欠ける

5. 人工種苗について

減少傾向

6. クロマグロ養殖の問題点

- (1) 餌の問題 ⇒ 大量の生餌・配合飼料の動物性タンパク質
- (2) 増肉係数 ⇒ エネルギー効率が低い

7. 漁業法改正

区画漁業権について新規参入が可能となった
実効性については疑問がある

- (1) これまでは地元優先 ⇒ 優先順位の廃止
- (2) 組合管理漁業権 ⇒ 個別漁業権、団体漁業権に分離
- (3) 既存の養殖会社 ⇒ 変化は期待できない
- (4) 新規参入 ⇒ 参入についての説明がない
生簀杵の規制
TAC、IQとの絡み